

平成二十七年
度
名寄市立大学 保健福祉学部
一般入試 前期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、筆記用具、消しゴム、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ティッシュペーパー以外、不要なものは置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指しを求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文を読み、あとの間に答えなさい。

そもそも、なぜ大学ではレポートを課題に出すのでしょうか。

(中略)

それは、「自分の意見を根拠つけて主張する」というスキルを身に付けてもらうためです。「なんだ、そんなことか。当たり前じゃないか」と思われるかもしれませんが、私が見るに、これこそが現在の日本において最も必要なはずなのに多くの人が身に付けていないスキルです。

自分の意見に根拠をつけることは、「相手の意見をよく聞いて、それを理解し、適切に反論すること」と表裏一体です。こうしたスキルが身に付いていないから、政治家はあるグループの意見（というより感情的な反応）に引っ張られて方針を発表し、それが別のグループからの反発を受けると正反対の方針に転換する。そうした態度に対して「方針がブレた」などと批判する政治家が登場し、こちらは他人の意見に耳を貸さず自分の方針に固執する。それでは独裁です。こうした状況の繰り返しは、まさしく民主主義の危機と言っほかありません。

「民主主義とは多数決だ」と多くの日本人が誤解していますが、実は民主主義の本質は、すべての人が対等な立場で自分の意見を根拠つけて主張し、討議し、お互いに納得できる合意点を探るというところにあります。多数決は、合意できたかどうかを最後に確認するための手段にすぎません。もしも民主主義が多数決だとするなら、国会はいつも強行採決をすればよいはずだし、あるいはネット社会では国会など不要で国民が直接ネットで投票して決めていけばよいということになるでしょう。もちろんそんなことをすれば、感情に流されて道理の通らない恐ろしい社会になるに違いありません。

個人的なことについて決めるとき、ふつう人は自分の感情や思いを根拠にして行動します。しかし、他人とともに行動することが必要な社会生活の場では、感情や思いは通用しません。感情は個人的、主観的なものですから、自分以外の人に受け入れられるとは限らないのです。

たとえば、「原子力発電所がキライだから反対」では、「原子力発電所が大好き」な人たちと、ケンカにしかありません。そうなると結局、力のある方の意見が通ってしまいます。「正しい意見」でなく、「強者の意見」が通ってしまうのです。原子力発電について言えば、放射線の危険性、放射性物質の管理技術の水準、発電所設備の破壊が起こるリスクと起こったときのコストなど、客観的なデータについてのみ、真偽を議論することができ、その結果として、お互いに納得できる結論を導くことも可能になります。

(中略)

「自分の意見を根拠つけて主張する」ということと真つ向から対立するのが、「人それぞれ」という言

葉です。本文でも書いたことですが、最近、レポートを書かせると、どのような課題を出しても、「結局、正しさは人それぞれだ。だから自分で決めればよい」といった結論を書く学生さんが激増しています。みんながみんな同じように「人それぞれ」と言うという、自己矛盾的状况になっています。

(中略)

「人それぞれ」とは、一見相手を尊重すると見せかけて、相手の意見をよく聞かずに体よく切り捨てる言葉です。そのことは、みなさんがこの言葉をどんな時に使うか、ちよつと考えてみれば明らかでしょう。「人それぞれ」と言っても平気なのは、自分にとってどうでもよいことについてか、どうでもよい相手の場合ですよ。逆に自分が、大切な友人や恋人に真剣に相談した時に、こんなことを言われたら、どんな気持ちになりますか？

(中略)

また、「人それぞれ」という言葉は、自分の意見を根拠つけて主張するという骨の折れる作業をしないで済ませてしまう言葉でもあります。「相手の意見を聞いて、それを理解し、適切に反論すること」は、実に骨の折れる作業です。自分の意見に客観的な根拠を付けるためにはしっかりと勉強しなくてはなりません。相手からの反論を受けて、自分の意見を引つ込めるとなれば、プライドが傷つくこともあるでしょう。しかしそうしたことは、他人とともに社会生活を営んでいくうえで、避けてはならないことなのです。「人それぞれ」と言うことで、そうした作業をしないでごまかしてしまうなら、他人との社会的連帯を築くことはできません。「人それぞれ」とは、実に無責任な自己責任論なのです。

多くの市民が、自分の意見を根拠つけて主張する能力を持たず、市民同士で連帯することもできないのであれば、「正しい意見」でなく「強者の意見」がまかり通る社会になってしまいます。そうした社会は、大多数の弱者（つまり、おそらくみなさんの大多数が含まれるであろう「ふつうの人」）にとつてたいへん生きにくい社会です。

「コピ。ペと言われないレポートの書き方教室」山口裕之著 新曜社二〇一三年 より

問 議論において「自分の意見を根拠つけて主張すること」と、「人それぞれ」という態度をとることについて、あなたが考えることを八百字以上千字以内で述べなさい。